

様式 1

教科用図書第3採択調査委員会

(音 楽) 小委員会委員長

藤 田 淳 也



調査研究・審議の経過	1. 審議の対象となった発行者及び数 ・ 教育出版社、教育芸術社の2者 2. 調査研究の手順 ・ 第1回調査委員会（7月9日）で2者の教科書を配布し、調査の観点や手順を協議した。 ・ 第2回調査委員会（8月7日、8日）に、各自の調査研究を基に内容別に協議し、様式1について整理するとともに、全体を通して各社の特徴をまとめ、様式2～6を作成した。 3. 調査研究のための観点、項目 ・ 取扱内容、内容の構成、排列については、「どのような学習活動を取り上げ、目標を達成できるか」「どのような学習活動を取り扱い、系統的・発展的に学習できるか」という視点で調査し整理した。 ・ 使用上の配慮等については、「学習意欲を高める工夫がされているか」「主体的に学習に取り組むことができるようになるための工夫がされているか」「目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか、という視点で調査し整理した。
全体を通じての特徴	1 教育出版社については、音楽文化と豊かに関わりながら学びを広げるための笙の名手からの伝統文化との関わり方についてのメッセージを紹介するページを設置するなど、「音楽を愛好する心情を育む」という特色があり、優れている。 教育芸術社については、地域に伝わる祭りや芸能を身近に感じられるよう、日本各地の郷土の祭りや芸能を紹介するページを設置するなど、「音楽によって生活を豊かにする心を育む」という特色があり、優れている。 2. このほか、2者については、以下の話題も出されていた。 教育出版社については、「郷土のさまざまな民謡」を扱うページで、北海道のアイヌ民謡についても表記されている、という意見が出されていた。 教育芸術社については、「郷土の祭りや芸能を扱うページにおいて、中学生へのインタビューを掲載するなどの工夫がされている、という意見が出されていた。



音楽の目標について
【教科の目標】 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。
【学年・分野・領域等の目標など】 [第1学年] (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 [第2学年及び第3学年] (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

【参考】

○ 目標の改善

音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「(1) 知識及び技能」、「(2) 思考力、判断力、表現力等」、「(3) 学びに向かう力、人間性等」について示した。また、資質・能力の育成に当たっては、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習活動に取り組めるようにする必要があることを示した。このことによって、生徒が教科としての音楽を学ぶ意味を一層明確にした。

○ 標準授業時数

第1学年—45 単位時間 第2学年—35 単位時間 第3学年—35 単位時間

様式3

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1学年 第2・3学年 音楽（一般）	音楽・017-72 音楽・017-83 音楽・017-84	中学音楽 1 音楽のおくりもの 中学音楽 2・3上 音楽のおくりもの 中学音楽 2・3下 音楽のおくりもの
取扱内容 〔学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等〕、 内容の構成・排列	○ 歌唱については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 斉唱から混声三部合唱までについて、各パートの役割や曲想と形式、構成の関わりを理解したり、曲想やその変化を味わいながら他者と合わせて歌う技能を身に付けたりする活動 第2,3学年～ 斉唱から混声四部合唱までについて、歌詞の内容や曲の背景、構成を理解したり、豊かなハーモニーや曲に合ったふさわしい声で歌う技能を身に付けたりする活動 ○ 創作については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 言葉のリズムやまとまりを理解したり、言葉のつなげ方や重ね方、全体のまとまりを工夫するなど言葉の特徴を捉えて音楽をつくる技能を身に付けたりする活動 第2,3学年～ 音符のつなげ方によるリズムの違いを理解し、自ら音符を選択したり、言葉の反復や重ね方を生かして、まとまりのある音楽をつくる技能を身に付けたりする活動 ○ 鑑賞については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 我が国や郷土の音楽及びアジア地域の諸民族の音楽等について、用いられる音階や曲の構成などの特徴を理解したり、日本とアジアの声による表現について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わったりする活動 第2,3学年～ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽等について、曲の特徴と曲全体の構成の関わりを理解したり、他の芸術と関係する音楽の役割や効果について考え、音楽のよさや美しさを味わったりする活動 ○ 〔共通事項〕については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 教科書冒頭で示された「学習の進め方」をもとに、それぞれの曲の特徴についてまとめたり、音楽を形づくる要素の働きに注目して、気が付いたことや感じ取ったことを話し合ったりする活動 第2,3学年～ 教科書冒頭で示された「学習の進め方」をもとに、テクスチュア（音の重なり方）の変化に注意して歌ったり、舞台芸術の表現から、それぞれの音楽の特徴をまとめ、共通点や相違点について紹介したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 曲の特徴についてまとめたり、曲の山場（クライマックス）の部分を確認し、その部分の特徴をまとめたりする活動 第2,3学年～ ピアノ伴奏が変化する効果について、感じ取ったことをまとめたり、フレーズや形式を理解して、ブレスの取り方を工夫して歌ったりする活動 ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」において、言葉の自然なリズムや抑揚を聴き取り、反復や重ね方による全体の構成を考えながら創作できるようにするなど、系統的・発展的に学習できる工夫 第2,3学年～ 「曲想を感じ取り、曲の特徴を生かして合わせて歌おう」において、フレーズや速度の変化を生かし、合唱で表現するときの指揮の仕方について音楽の特徴と合わせて考えるなど、系統的・発展的に学習できる工夫				
使用上	○ ユニークな活動を展開するピアニストから中学生に向けたメッセージや、人と社会とのつながりを生み出す取組を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。				

の 配 慮 等	○ アイコンやマーク等で、学習の見通しや活動例を示したり、楽曲のよさや魅力についてまとめるコーナーを掲載したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ ユニバーサルフォントを使用したり（全学年）、カラーユニバーサルデザインに配慮したり（全学年）するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、まなびリンク（二次元コード）を掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
そ の 他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

様式3

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
		27・教芸	第1学年 第2・3学年 音楽（一般）	音楽・027-72 音楽・027-83 音楽・027-84	中学生の音楽 1 中学生の音楽 2・3上 中学生の音楽 2・3下
取扱内容 〔学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等〕、 内容の構成・排列	○ 歌唱については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 斉唱から混声三部合唱までについて、歌詞と曲の構成の関係を理解したり、曲想やその変化を味わいながら音色や強弱を工夫して歌う技能を身に付けたりする活動 第2,3学年～ 斉唱から混声四部合唱までについて、声部の関わり合いを理解したり、曲想の変化やパートの重なりを曲に合ったふさわしい表現で歌う技能を身に付けたりする活動 ○ 創作については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 和音の動きに合わせた音のつながり方を理解したり、表したい場面を選び、構成を工夫するなど言葉の特徴を捉えて音楽をつくる技能を身に付けたりする活動 第2,3学年～ リズムの重なり方による特徴を理解したり、自ら音符を選択したり、和音の動きに合わせてまとまりのある旋律をつくる技能を身に付けたりする活動 ○ 鑑賞については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 我が国や郷土の音楽及びアジア地域の諸民族の音楽等について、映像の中で音楽が果たす役割を理解したり、音楽の特徴と歌詞が表す情景や心情について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わったりする活動 第2,3学年～ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽等について、声による表現の特徴を理解したり、作曲者が記した標題や解説などから作品にこめられた思いについて考え、音楽のよさや美しさを味わったりする活動 ○ 〔共通事項〕については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 目次の後に1年間の学びを俯瞰することができるページ「学びの地図」をもとに、各教材に設定された音楽を形づくる要素を踏まえて学習したり、自分たちの表現を工夫したりする活動 第2,3学年～ 目次の後に1年間の学びを俯瞰することができるページ「学びの地図」をもとに、各教材に設定された音楽を形づくる要素を踏まえて学習したり、音色や旋律に着目して、伝統音楽を聞き比べて特徴をまとめたりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～ 聴き取ったことと感じ取ったことをまとめたり、演奏を聴いて確認したことをもとに気付いたことや考えたことをまとめたりする活動 第2,3学年～ 言葉のまとまりや抑揚を意識しながら、歌詞を音読したり、声の音色や速度、リズムの変化を感じ取り、表現を工夫して謡ったりする活動 ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～ 「リズムチャレンジ」において、リズムを選び、そのリズムを繰り返したり、リズムを変化させたりして、リズムアンサンブルを創作できるようにするなど、系統的・発展的に学習できる工夫 第2,3学年～ 「伝統音楽の魅力を見つけよう」において、音楽を聴いて気付いたことをまとめ、地域に伝わる祭りや芸能に取り組む意義を考えるなど、系統的・発展的に学習できる工夫				
使用上	○ 各界で活躍する方の中学生に向けたメッセージや、様々な角度から音楽を捉え、より幅広い価値観をもつことができる「音楽って何だろう？」を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。				

の 配 慮 等	○ どのような曲なのかを簡潔に示す楽曲の紹介文を示したり、「問いかけ」による考えたいポイントを掲載したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ ユニバーサルフォントを使用したり（全学年）、色覚特性への配慮をしたり（全学年）するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
そ の 他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

様式 4

＜音楽（一般）の具体的な調査項目＞

◎調査項目

- | |
|---|
| <p>① 表現（歌唱、創作）及び鑑賞にかかわるページ数及び総ページ数</p> <p>② 我が国や郷土の伝統音楽を取り扱うページ数</p> <p>③ 北海道とかかわりのある内容を取り上げているページ数</p> |
|---|

◎調査項目にした理由

- | |
|--|
| <p>① 学習指導要領に示されている内容を適切に指導することが求められていることから、表現（歌唱、創作）及び鑑賞にかかわる全体としての分量について把握する必要があるため。</p> <p>② 生徒が我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくことのさらなる充実が求められていることから、我が国や郷土の伝統音楽の取扱いについて把握する必要があるため。</p> <p>③ 生徒が興味・関心をもって学習することができるよう地域の実態などを生かした指導をすることが求められていることから、北海道にかかわる内容等について把握する必要があるため。</p> |
|--|

様式 5

※調査項目の数字が網掛けになっている項目は、様式 6 にデータを掲載していることを示す。

調査項目				発行者	教出			教芸		
					1	2・3上	2・3下	1	2・3上	2・3下
①	表現(歌唱、創作)及び鑑賞にかかわるページ数及び総ページ数	A表現・歌唱	ページ数	51	44	40	48	44	41	
			全体に占める割合	55%	49%	43%	49%	45%	45%	
		A表現・創作	ページ数	5	4	4	5	5	4	
			全体に占める割合	5%	4%	4%	5%	5%	4%	
		B鑑賞	ページ数	20	23	17	25	21	23	
			全体に占める割合	22%	25%	18%	26%	21%	23%	
		その他	ページ数	16	21	31	20	28	27	
			全体に占める割合	17%	23%	34%	20%	29%	28%	
		総ページ数			92	92	92	98	98	98
		前回の総ページ数			92	92	92	98	98	98
		増減			0%	0%	0%	0%	0%	0%
② 我が国や郷土の伝統音楽を取り扱うページ数				23	31	33	27	32	40	
③ 北海道とかかわりのある内容を取り上げているページ数				6	3	2	9	2	3	

※総ページ数は、中学校用教科書目録に示されているページ数とする。



様式 6

様式 5 の調査項目③「北海道とかかわりのある内容」の具体的な内容

者	学年	教科書の構成(該当ページ)	取扱い方	タイトル・主な内容
教 出	1	学習マップ(P9)	民謡名	赤とんぼ
		日本の歌 みんなの歌 (P22)	説明	A Message for Youに示された作詞者三木露風の思い出の中で、北海道函館市付近のトラピスト修道院で作曲したことの説明
		民謡の特徴を捉えてふさわしい声で歌おう(P34)	楽譜 説明	ソーラン節 北海道の日本海沿岸のニシン漁で歌われていたことの説明
		郷土のさまざまな民謡 (P36、37)	地図 民謡名	日本地図 ソーラン節(北海道民謡)、江差追分(北海道民謡)、チュプカ ワ カムイラン(アイヌ民謡)
	2・3 上	日本とアジアの声によるさまざまな表現(P58)	写真	江差追分(北海道)
		曲の形式を捉え、パイプオルガンによる表現を鑑賞しよう(P36)	写真	パイプオルガン 札幌コンサートホールKitara大ホール
		歌のアルバム(P78)	曲名 写真	時計台の鐘 札幌時計台
		歌のアルバム(P79)	写真 地域の名称 説明	大雪クリスタルホール 北海道旭川市 大雪クリスタルホール(北海道旭川市)内にある作詞者の詩碑の説明
	2・3 下	CMソングをつくろう(P32、33)	キャッチコピー	北海道、名物、ジンギスカン
教 芸	1	「中学生の音楽1」の学習内容(P8)	曲名	ソーラン節
		イメージと音楽(P37)	作曲者	伊福部 昭
		声や音楽の特徴を生かして日本の民謡を歌おう(P60、61)	民謡名	ソーラン節
			採譜	ソーラン節の節回し
			監修者・写真	伊藤多喜雄
			写真	昭和時代初期のニシン漁の様子
		郷土に伝わる民謡を調べよう(P62)	地域の名称	北海道古平郡
			説明	江戸時代から昭和時代初期にかけて、北海道の日本海側沿岸でニシン漁が盛んであり、その際に歌われたことの説明
	2・3 上	日本音楽に関する言葉(P63)	地図 民謡名	日本地図 ソーラン節、江差追分
		心通う合唱(P76、77)	民謡名	ソーラン節(北海道)
		音楽を形づくっている要素(P92)	説明	北海道のテレビ局で制作された番組のエンディングテーマであることの説明
			イラスト 民謡名	ソーラン節の掛け声 ソーラン節
	2・3 下	受け継ごう！郷土の祭りや芸能(P68、69)	写真 全国の郷土の祭りや芸能の例 地図	アイヌ古式舞踊(北海道) アイヌ古式舞踊 日本地図
		社会を映し出す音楽(P40)	作曲家	伊福部 昭
	2・3 下	ポピュラー音楽のジャンル(日本編)(P62、63)	曲名	「津軽海峡冬景色」※歌詞：連絡船の情景
			歌手名	演歌：北島三郎※知内町出身
			グループ名	J-POP：サカナクション ※メンバーの一部が、小樽市、札幌市出身

様式 1

教科用図書第 3 採択調査委員会

(音 楽) 小委員会委員長

藤 田 淳 也



調査研究・審議の経過	1. 審議の対象となった発行者及び数 ・ 教育出版社、教育芸術社の 2 者 2. 調査研究の手順 ・ 第 1 回調査委員会（7 月 9 日）で 2 者の教科書を配布し、調査の観点や手順を協議した。 ・ 第 2 回調査委員会（8 月 7 日、8 日）に、各自の調査研究を基に内容別に協議し、様式 1 について整理するとともに、全体を通して各社の特徴をまとめ、様式 2～6 を作成した。 3. 調査研究のための観点、項目 ・ 取扱内容、内容の構成、排列については、「どのような学習活動を取り上げ、目標を達成できるか」「どのような学習活動を取り扱い、系統的・発展的に学習できるか」という視点で調査し整理した。 ・ 使用上の配慮等については、「学習意欲を高める工夫がされているか」「主体的に学習に取り組むことができるようになるための工夫がされているか」「目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか、という視点で調査し整理した。
全体を通じての特徴	1 教育出版社については、音楽文化と豊かに関わりながら学びを広げるための笙の名手からの伝統文化との関わり方についてのメッセージを紹介するページを設置するなど、「音楽を愛好する心情を育む」という特色があり、優れている。 教育芸術社については、地域に伝わる祭りや芸能を身近に感じられるよう、日本各地の郷土の祭りや芸能を紹介するページを設置するなど、「音楽によって生活を豊かにする心を育む」という特色があり、優れている。 2. このほか、2 者については、以下の話題も出されていた。 教育出版社については、「郷土のさまざまな民謡」を扱うページで、北海道のアイヌ民謡についても表記されている、という意見が出されていた。 教育芸術社については、「郷土の祭りや芸能を扱うページにおいて、中学生へのインタビューを掲載するなどの工夫がされている、という意見が出されていた。



音楽の目標について
【教科の目標】 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。
【学年・分野・領域等の目標など】 [第1学年] (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 [第2学年及び第3学年] (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

【参考】

○ 目標の改善

音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「(1) 知識及び技能」、「(2) 思考力、判断力、表現力等」、「(3) 学びに向かう力、人間性等」について示した。また、資質・能力の育成に当たっては、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習活動に取り組めるようにする必要があることを示した。このことによって、生徒が教科としての音楽を学ぶ意味を一層明確にした。

○ 標準授業時数

第1学年—45 単位時間 第2学年—35 単位時間 第3学年—35 単位時間

様式3

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1・2・3学年	器楽・017-72	中学器楽 音楽のおくりもの
取扱内容 〔学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等〕、 内容の構成・排列		○ 器楽については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・曲想と音楽の構造との関わりを理解したり、独奏や他のパートと合わせて演奏する技能を身に付けたりする活動 ○ 〔共通事項〕については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・楽器の背景にある文化や伝統を考えたり、楽器の音色や響きを生かして、全体の構成を工夫したりして演奏する活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 ・活動のポイントや運指図を確認できるようにしたり、動画コンテンツで模範演奏を視聴したりして演奏する活動 ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・篠笛の演奏において、一人で旋律を吹く活動のあとに、学習した曲を重ねて演奏できるようにするなど、系統的・発展的に学習できる工夫			
使用上の配慮等		○ 多彩な合奏曲を掲載したり、中学生になじみのある旋律を示したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 楽器の構え方などの詳細な写真を掲載したり、段階的に身に付く演奏の仕方を示したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ ユニバーサルフォントを使用したり（全学年）、カラーユニバーサルデザインに配慮したり（全学年）するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、まなびリンク（二次元コード）を掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。			
その他		※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。			

様式 3

観点 番号	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	27・教芸	第1・2・3学年	器楽・027-72	中学生の器楽
取扱内容〔学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等〕、内容の構成・排列	○ 器楽については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・曲全体の構成を理解したり、パートの役割に合う音色や強弱を工夫して演奏する技能を身に付けたりする活動 ○ 〔共通事項〕については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・音色や音の重なり方の特徴を理解したり、音色を考えながら楽器の組み合わせ方を工夫したりして演奏する活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「学びのコンパス」で学習の手順を確認できるようにしたり、デジタルコンテンツで学習に役立つ資料を視聴したりして演奏する活動 ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・ギターの演奏において、奏法の違いを学習したあとに、奏法の違いを生かして、重奏で演奏できるようにするなど、系統的・発展的に学習できる工夫			
使用上の配慮等	○ 打楽器奏者のコラムを掲載したり、同世代の音楽活動を示したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 学習目標に迫るための具体的な学習活動を例示したり、考えたいポイントを示したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ ユニバーサルフォントを使用したり（全学年）、色覚特性への配慮をしたり（全学年）するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。			
その他	※ 中学校用教科書目録（令和7年度使用 文部科学省）による ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。			

様式 4

＜音楽（器楽合奏）の具体的な調査項目＞

◎調査項目

- | |
|--|
| <p>① 表現（器楽）にかかわるページ数及び総ページ数</p> <p>② 和楽器を扱うページ数</p> <p>③ 北海道とかかわりのある内容を取り上げているページ数</p> |
|--|

◎調査項目にした理由

- | |
|---|
| <p>① 学習指導要領に示されている内容を適切に指導することが求められていることから、表現（器楽）にかかわる全体としての分量について把握する必要があるため。</p> <p>② 表現（器楽）の指導において、生徒が我が国や郷土の音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫することが求められていることから、和楽器の扱いについて把握する必要があるため。</p> <p>③ 生徒が興味・関心をもって学習することができるよう地域の実態などを生かした指導をすることが求められていることから、北海道にかかわる内容等について把握する必要があるため。</p> |
|---|

様式 5

※調査項目の数字が網掛けになっている項目は、様式 6 にデータを掲載していることを示す。

発行 者				教 出	教 芸	
調 査 項 目						
①	表現（器楽）にか かわるページ数及 び総ページ数	A表現・器楽	ページ数	86	85	
			全体に占める割合	81%	80%	
		その他	ページ数	20	21	
			全体に占める割合	19%	20%	
		総ページ数			106	106
		前回の総ページ数			106	106
		増減			0%	0%
②	和楽器を扱うページ数			51	41	
③	北海道とかかわりのある内容を取り上げているページ数			2	5	

※総ページ数は、中学校用教科書目録に示されているページ数とする。

様式 6

様式 5 の調査項目③「北海道とかかわりのある内容」の具体的な内容

者 種	教科書の構成（該当ページ）	取扱い方	タイトル・主な内容
教 出 学 年	発展 弾く楽器の仲間たち（P57）	写真	トンコリ
		説明	樺太アイヌの楽器。江戸時代には宗谷（北海道）のアイヌにもあったことの説明
	名曲旋律集（P98）	曲名	赤とんぼ ※北海道函館市付近のトラピスト修道院で作曲
教 芸 学 年	巻頭ページ（P2、3）	写真	「さっきのドラムソロやったの、誰だ？」 石若駿（打楽器奏者、ドラマー）
		説明	北海道生まれ
	篠笛（P56）	写真	篠笛を使った各地に伝わる郷土の祭りや芸能 五勝手鹿子舞
		地域の名称	檜山郡江差町
	全体の響きを確かめながら演奏しよう。（P80、81）	曲名	千の風になって ※曲の誕生地が七飯町

